「葦」第37号発刊によせて

奈良県立医科大学附属病院看護部
看護部長　渡　邉　フサ子

「光陰矢のごとし」のたとえのように時の流れの早さに驚いています。この1年間、どれだけの課題が達成できたのか気になるところです。「葦」第37号の発刊と共に振り返りをしたいと思います。

看護部の目標で毎年上がっている「看護の質」の向上は永遠の課題です。医療の進歩に伴い患者・医師から看護に求められるものは益々拡大してきていますが看護の原点は不動のものです。ナイチンゲールは「患者に三重の関心をもつ」ことを教えています。平成13年7月、患者家族から「患者を看ていない看護婦」との投書がありました。看護者の「何気ない言葉」が患者を傷つけてしまったのです。ご家族へのお詫びと「患者に対する関心が足りなかった」ことを反省しました。その後、患者の家族から届いた手紙の一部を紹介します。「患者という文字は心を串ざきにされていると書きます。病気をすると気弱になってちょっとしたことでも落ち込んだりしてしまいます。気持ちが負けそうになった時でも看護婦さんの励ましに気を取り直し前向きに病気と闘おうとする気力が出て来たりするものです。看護婦さんの一言が時には薬よりも効くことがあるんです―以下省略―」当院での出来事ではありませんがこの手紙に込められた患者・家族の看護への想いは胸に応えました。患者の生活支援の責任は看護者にあります。看護者が提供するケアにより患者にどのような変化を期待するのか、共に悩み、見極め、感動する。このことは患者が私達の最良の師であることを示していると思うのです。「患者から学び、技術を高め専門職者として成長したい」この積み重ねが質の向上に繋がると考えています。多忙な日々ではあるけれどしっかり患者と対峙できる看護者であることを願っています。

2つ目の目標である二交代制の導入については18年1月にA棟の3病棟から施行しました。平成16年に看護職員が夜間の出退勤時に危険にさらされたのが動機ですが看護職員のQOLを高め、看護の質を高めることが目的ですので看護職員個々のライフスタイルに合わせた勤務体制が選択できることが看護の質の向上に貢献できると考えています。

看護業務の整理については、18年度にはシーツ交換業務の業者委託が実現可能となります。全てを委託にできませんが重症患者に付いては看護者が行いますので、作業の効率化を図るために包布の結び紐3本を2個のリングに変更することができました。たかが紐ですが、されど紐です。作業効率は上がるはずと期待しています。些細なことですがコツコツとりくんでいくことが業務整理の一歩であると信じています。更に周辺業務のサポートシステムを確立するために看護助手9名の採用が認められました。看護助手9名のみですので全病棟への配置はできませんが病床利用率や在院日数を参考にして配置していきたいと考えています。次年度は通常業務を実践しながら法人化のための棚卸や電子カルテ導入準備で益々忙しくなります。看護部は他職種との係わりが多岐にわたるため業務量も多くなりますが特に電子カルテ導入の目的を理解しそれぞれの職種の専門性を明確にできるように取り組んでいきたいと思います。新しいシステムが導入されることで一時的に混乱が生じると考えますが皆さんの知恵と工夫と組織力を持って乗り越えていけることを念じています。